(明治卅一年二月十二日第三種郵便物認可)

神戸新聞 號外

大正十年七月廿九日

川崎罷工團 警官隊と大衝突

生田より和田宮に向ふ途中湊川隧道南にて＝警官隊拔劍双方に負傷者數十名

川崎造船所爭議團本部では豫定の如く今二十九日生田、和田宮、七宮の各神社に參拜祈願すべく午前七時頃生田神社境內に參集した職工は其數萬餘と註せられ、例に依り祈願文朗讀、幹部の演說等を終り、一同は兵庫縣內なる七宮神社に參拜せんとして大集團を作り生田前を練り出したが中町から群衆の先端は其の儘に達し元町筋を西へ湊川前から南下して中町筋より新開地福原前に至るや、かねて形勢不穩と見て同所に屯ろせる數十名の警官隊は警戒の第一線を嚴重に固め一歩も進ませじと待構へてゐたが職工側は之を突破して進まんとし茲に端なくも警官隊と一大衝突を演ずるに至り約半數は同所より引返したが半數の約五千人は格鬪の末終に第一線を突破しワツショ〳〵の喊聲を揚げて漸次南下し隧道上の電車線路を橫斷し川崎造船所本社前へ[illegible]路を南へ驀進せんとした爲め同所に警戒の第二線を固守せる巡查約四十名は此の群衆を遮らんとして茲に再び大衝突を演ずるに至つた此時職工團中央部から石礫に瓦礫を投じて警官隊の怯むに乘じ突破せんとしたが巡查は必死となつて之に對抗し就中相生橋署の清水巡查は遂に職工團の爲め袋叩きにされ居るを見て警官隊も興奮し遠藤相生橋署長の命令一下遂に拔劍し極力之を防止した爲め大亂鬪となり茲に負傷者算を亂して凄絶愴絶の大修羅場を現出した、斯くて清水巡查は辛うじて警官隊の手に取戻されたが同じく相生橋署の大迫巡查は面部を鋭利なる刃物で割かれた外職工側の負傷者は十數名に及び文盲(?)隊長の如き白眼を一面鮮血に彩られてゐた、尚負傷者は直に西出町大隈病院に運び手當を施すと共に警官隊は續々首謀者を檢擧し約二十分の後職工團も漸く解散しかけたが此の騷ぎの爲め通行人等が瓦礫の爲め負傷した者も可なり多き模樣である

發行兼編輯人 濱口捻
印刷人 大岡卯三郎
發行所 神戸市榮町六丁目六十一番邸 株式會社 神戸新聞社

10.7.29

七月十七日午後一時 西新開地 於 三國館

今や神戸六萬の勞働者が或るものを要求して居る。勞働者の要求非なるか?。拒絶せんとする資本家の凡ての行動は是なるか?。輿論の批判を乞はんとす。勞資間の現狀を知らんとする者は來れ。

時局勞働問題演說會

辯士
勞働者新聞社長 賀川豐彦君
神戸印刷工組合長 久留弘三君
外 數名

主催 神戸鐵工組合第一支部

勞働爭議講演會

七月十一日午後七時より 於 湊川勸業館

人間をして機械化せしめた現今の社會から脫し、眞個の勞働を行樂の世界に生きんと努力せる我々プロレタリヤ階級を、頭から壓へ付けようとする資本家に對して、諸君は如何に處せんとするか。勞働爭議紛糾の今日、我等の進むべき針路は、唯一の勞働組合あるのみである。親愛なる湊港の勞働者諸君、皆來れ、來つて諸名士の批判を聽け!!!

應援團体
神戸鐵工組合
神戸造船勞働組合
神戸鐵道工組合
東神戸鐵工組合
神戸電氣工組合
神戸[illegible]工正組合
友愛會神戸聯合會

講師
久留弘三氏
岡成志氏
賀川豐彦氏
木村錠吉氏
野田文一郎氏
今井嘉幸氏
其他團体代表者

主催 神戸印刷工組合